

令和6年度国際教養学部卒業式式辞

まずは2021年に入学したみなさんへ

みなさんは、入学した2021年のことをおぼえていますか。みなさんが大学生活を始めたこの年、まだコロナ禍のまっただ中でした。この年、まだコロナのワクチン接種が医療関係者などから始まった年です。また一年遅れで開催された東京オリンピックがあり、そして菅首相から岸田首相に変わった年でもあります。みなさんが入学をした年は、まだ世の中が不安のまっただ中であつたといえます。教室では、間隔を開け座ること、教卓の前にパーテーションが置かれていたこと、覚えていますか。身近な私たちの生活も2025年の今、だいぶ変わってきました。直近の過去であるこの四年の間でも多くの生活の変化がありました。2021年はまだまだメディア授業が主でした。本来ならば対面授業が当たり前ですが、そうではないメディア授業から対面授業への変化を四年間、みなさんは体験してきました。教員である私にとっても授業形式の変化に学ぶことは多かったなと感じます。今後みなさんが年齢を重ねて、メディアと対面というコミュニケーションのあり方を深く考えてもらえるとうよいなと思っています。

次に過年次での卒業を迎えたみなさんへ

少し時間がかかったかも、と思うこともあるでしょうが、時間がかかったのも悪くはないかなと思うときが来ます。何も予定通りにいくことが大事なわけではないのです。何かしら苦勞をし、悩んだことがあっても、やりきれたなと思うことの価値が、時間がたつにつれ、自覚化されるでしょう。

遠回りではありません。人の歩く道やかかる時間はいろいろなのだと思ってほしいです。ここにいるみなさんは、世の中の大きな変化の中で過ごした大学生活であつたと振り返り、これから年齢を重ねながら、大学生活を思い出せるようにと願います。

さて、卒業するみなさんにふたつだけ、簡単にお伝えします。

ひとつは、「直近の過去を振り返り、現在の自分を位置づけて欲しい」ということです。先ほど2021年のことを少し触れました。たった四年でも大きな変化です。現在から未来へ生きていくのに、過去に囚われる必要はありません。しかし、何かに迷いがあつたとき、そして現在の自分がどうあるべきかを考えたとき、そもそも現在に至るまでの直近の過去を生きた私は何を考えていたのか。直近の過去を生きた私と現在の私の間で対話することが存外大事であるのかも、と思ってください。そして直近の過去の私を振り返ると、「恥ずかしい」「愚かだ」という思いをすることもあるかもしれません。しかしそのときに、自分なりに生きてきたから、今現在の自分がここにいると思ってください。

「今の自分を肯定する」そのことは直近の過去を生きた自分を意識したときに、「違う自分になろう」「ここまで頑張ったのだから、これからもそのような自分でいよう」とさまざまな思いが出てきます。「歴史」から学ぶというのは、未来の道筋を考えることにつながります。未来を予測するのではないのです。自分なりの未来のあり方を持ってほしい。直近の過去には、未来の道筋を考えるヒントがあります。

もう1点お伝えしたいことがあります。

本当につらいとき、人の話を聞き流すことは悪いことではない、と自分に言い聞かせてください。みなさんが何かしらつまづいたとき、他人は、身勝手にあなたを責めることはあるでしょう。みなさんのその状態に落ち度があるかのようにいわれることがあるでしょう。そのとき、右から左に流してしまえることにつとめてください。私の勝手な心配ですが、みなさんは大学に入る前、とても真面目に高校の先生やご家族の言うことを聞いて頑張ってきた人が多いのではないかな、と思ったりします。これからの人生においては、人の言うことも取捨選択できるようにと願います。

誰の人生でもない。みなさん自身の人生です。自己責任、ではありません。私はこのことばは権力的で嫌いです。他者に対しての思いやりがないニュアンスを感じます。自分の人生を大事にするということは、自分の存在を否定しないことです。「イヤな思いやことばは右から左に流す。」そうすれば、みなさんは、自分にも他者にも大事に接することができます。意外に難しいですよ。でも聞き流す鈍感力。意識してみてください。

さて、新しい世界にみなさんは進みます。昨年の卒業式でも伝えましたが、改めてお伝えします。国際教養学部という名称もありますが、英語名の College of Liberal Arts and Sciences という名前を思い出して前に進んでください。みなさんは、文系、理系という枠組みとは違うカリキュラムの中で過ごされたことを思い出してもらえればと思います。みなさんも戸惑いを持ったことがあるでしょうが、教員も戸惑いの中カリキュラムを考えてきました。これからもこの学部は型にはまらないカリキュラムを意識して学びの場を作っていきます。文系、理系という枠組みで自分を型にはめず、何でも柔軟な姿勢で挑戦できる人であってほしいと願います。

来年度、この学部は10周年を迎えます。みなさんの歩んできた卒業までの道のりが積み重なり、未来へとつながるように、教員一同、心がけてまいります。

本日は、本当におめでとうございます。

令和7年3月23日
千葉大学 国際教養学部長 和田健